

静岡ブルーレヴズ ラグビースクール

2025年 釜石遠征活動レポート 2025.9.20 - 21



遠征目的

- ともだちジュニアマッチによる
同世代選手と交流し、絆を深める
- 震災学習を通じ、東海地区に住む
子供達の防災意識を高め命を守る

9/20

- トップチーム試合観戦
- いのちをつなぐ未来館見学
- 宝来館 岩崎さん講話
- 交流会

9/21

- ともだちジュニアマッチ
- アフターマッチファンクション

Special Thanks

2011年3月11日に発生した東日本大震災。
被災直後、ラグビーのまち・釜石市をラグビーで勇気づけようと、復興祈
念マッチを実施しました。以来、クラブとして釜石市ならびに日本製鉄
釜石シーウェイブスの皆様とは15年にわたり交流を続けております。
2021年からはジュニアチーム同士の交流も始まり、今年で5年目を迎
えることができました。

改めまして、釜石市の皆様、日本製鉄釜石シーウェイブスならびに弘
前サクラオーバルズの皆様、そして本遠征の実施にあたり多大なるご支
援を賜りました皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今回の遠征に参加した中学生は震災以降に生まれた世代です。静
岡県内でも学校で震災について学んでいますが、実際に釜石市を訪
れ、被災された皆様の生の声を聞き、現地の空気を肌で感じることで、
災害の恐ろしさや命の尊さを改めて学ぶ貴重な機会となりました。

交流会・交流試合では、同世代のラグビー仲間と繋がり、友情を深め、
ピッチではラグビーという競技の素晴らしさを体現し、多くの方々に感動
を届けてくれました。2日間を通して、学びの多い充実した時間を過ご
すことができ、大変有意義な遠征となりました。

本当にありがとうございました。

最後に、静岡ブルーレヴズと釜石市ならびに日本製鉄釜石シーウェイブ
スとの交流が今後も末永く続くことを祈念するとともに、ラグビーを通じて、
これからもたくさんの笑顔と感動を届けて参ります。

静岡ブルーレヴズ(株) 育成・普及部 部長 田井中 亮範

Special Thanks

釜石遠征 支援企業／支援者 一覧

株式会社東海トラベル 様

<https://www.tokaitravel.co.jp/>

株式会社WRS JAPAN 様

<https://wrsjapan.com/>

株式会社グリーンワークス 様

<http://www.greenworksinc.jp/>

株式会社ジェイ・プラッカ 様

<https://www.j-placa.jp/>

【 行程 】 ～1日目～

06 : 20 浜松駅出発

08 : 18 東京 → 盛岡

10 : 45 盛岡 → 釜石鵜住居復興スタジアム

13 : 00 釜石鵜住居復興スタジアム

▶ 試合観戦/ハーフタイム「ありがとうの手紙の歌」合唱

15 : 30 いのちをつなぐ未来館 ▶ 震災学習

16 : 45 釜石鵜住居復興スタジアム ▶ 宝来館岩崎さま講話

18 : 00 釜石PIT ▶ 交流会

20 : 00 釜石ベイシティホテル

22 : 00 消灯



【 行程 】 ～2日目～

06 : 50 散歩

07 : 00 朝食

08 : 30 ホテル出発

08 : 50 釜石鵜住居復興スタジアム到着

10 : 30 ともだちジュニアマッチK/O

▶ 釜石シーウェイブスアカデミー・弘前サクラオーバルズ合同

12 : 00アフターマッチファンクション

13 : 30 釜石鵜住居復興スタジアム出発

15 : 20 新花巻出発

19 : 03 東京駅出発

20 : 27 浜松駅到着 解散



震災学習 いのちをつなぐ未来館/宝来館岩崎さん講演



ともだちジュニアマッチ 交流会/アフターマッチファンクション



ともだちジュニアマッチ

(中学生交流試合)



釜石シーウェイブスアカデミー



弘前サクラオーバルズ



静岡ブルーレヴズラグビースクール

チーム
ブルー

44-27

チーム
レッド/ホワイト

2025/9/21(日) ともだちジュニアマッチ ※会場：釜石鶴住居復興スタジアム

	所属	チームブルー	ポジション	チームレッド/ホワイト	所属
1	弘前	石岡 湊 (イシオカ ミナト)	PR	木村 公謙 (PR/CTB) (キムラ コウケン)	弘前
2	静岡	渡邊 蒼太 (ワタナベ ソウタ)	HO	佐伯 晃 (サエキ コウ)	釜石
3	弘前	佐藤 蒼人 (サトウ アウト)	PR	佐藤 湊 (サトウ ミナト)	静岡
4	弘前	佐藤 稀莉 (サトウ キラリ)	LO	木浪 冬偉 (キナミ トウイ)	弘前
5	静岡	吉田 温真 (ヨシダ ハルマ)	LO	林 祥光 (ハヤシ ヨシミツ)	静岡
6	静岡	菅原 凌也 (スガハラ リョウヤ)	SH	佐々木 舞音 (ササキ マオ)	釜石
7	静岡	高橋 来輝 (タカハシ ライキ)	SO	佐々木美帆 (ミホ) 神 璃々依 (リリイ)	弘前
8	静岡	芦澤 琉生 (アシザワ ルイ)	WTB	川見 一鉄 (カワミ イッテツ)	静岡
9	弘前	國分 塔子 (コクブン トウコ)	CTB	金山 拓夢 (カネヤマ タクム)	静岡
10	静岡	牧野 良平 (マキノ リョウヘイ)	CTB	工藤 清人 (PR/CTB) (クドウ キョウト)	弘前
11	釜石	菊池 蓉 (キクチ ヨウ)	WTB	立石 昂志郎 (タテishi コウシロウ)	弘前
12	釜石	平野 凱士 (ヒラノ カイト)	FB	矢島 真 (ヤジマ シン)	静岡

チームブルー

- ・田井中ヘッドコーチ (静岡)
- ・細川コーチ (釜石)
- ・佐々木コーチ (弘前)

チームレッド&ホワイト

- ・鈴木ヘッドコーチ (釜石)
- ・國分コーチ (弘前)

ともだちジュニアマッチ



静岡ブルーレヴズRS、釜石シーウェイブスジュニア、弘前サクラオーバルズの3チーム、総勢25名のメンバーを2チーム(チームブルー／チームレッド・ホワイト)に分け、一日限りのスペシャルチームを結成し、交流試合を実施しました。

試合前夜に行われた交流会にて、初めて会ったメンバーとの交流を深め、迎えたキックオフ。両チームともに、初めて一緒にラグビーをしたとは思えないほど、しっかりボールを繋ぎ、素晴らしいトライがたくさん生まれました。相手に体をぶつけ合い、全力で走り、転んではまた走る。子どもたちの全力プレーは、“見ている人たちの心を動かす”、ラグビーのスポーツの素晴らしさを体現してくれました。

スクール生レポート



東日本大震災 から学んだこと!



マグニチュード 9.0 の世界最大規模の大地震。「大津津波警報」が発表された。特に岩手県・宮城県北東部は、リアス式海岸のため陸に近づくにつれ、だんだんと波の速度は落ちていくが、高さは徐々に高くなっていく。

さらに僕達がお話を聞いた鶴住居町は平地で、目の前には大相模湾が広がる。普段は魚などの海の恵みを与える海だが津波になるとがらと一変しリアス式海岸が津波の高さを倍増させる装置のようになる。そこに平地の鶴住居町がくするため、机の上でコップに入っている水を倒した状態になった。津波は一回ではなく、何回も来る。

「津波からにげる際、一般道は通行止め。」

「なぜなら、戻ると信号機のはさんなど、障害物など危険な物がたくさん散らばっているため。」

絆マッチ から学んだこと!



絆マッチは 2011 年 6 月 5 日に始まり、ラグビーの「絆」や「結束」の精神を広げ共有しラグビーに関わる人々(選手、コーチ、ファン)を一つにすること、そして東日本大震災からの復興を支援する目的のため今日まで続いている。

・ラグビーのフーラーはもちろん、関わりがなかった他のチームの選手達との「絆」を気付かされたから、半日という短い時間で仲良くなれ、最高のフーラーができたのだと感られた。

・同じポジションの人達と交流しあい、ポイントを言いあえたのも、この「絆」のお陰だと思っている。

最後に...

何をするにも一番最初は「絆」だと感じた。なぜなら「絆」がなければ、お互い良いフーラーができないし、話すできないからだ。

僕が今回の釜石遠征では、できたことが2つ、できなかったことも2つあります。

できたことの1つ目は2日目の試合で声を出すことです。前半やアップは声が出ていなかったけど、後半からは相手よりも声を出すことができた。声を出すことができたからこゝろ試合に勝ったと思う。そして、できたことの2つ目は他チームの人と仲良くすることです。もう少し仲良くなれたかもしれないけど、名前を覚えてもらうことくらいはできたと思う。また、できなかったこと(失敗したこと)の1つ目は、予定の時間を守ることです。2日目の朝、6時45分に1Fのげんかん近くに集合と言われて、5時30分に起きたのに、二度寝してしまって、少し遅れそうになったので、次またこのような遠征があったときは、起きたらすぐ布団から出て、先の予定を見こして準備しようと思えた。そして、できなかったことの2つ目は遠征に行く準備です。バスタオルとパンツを忘れてしまって、パンツは行きにはいたもので何とか乗りました。バスタオルもホテルのものを使ったから大丈夫だったけど、次は絶対に忘れないようにしたいです。

そして、震災の時の言話を聞いて、防災訓練は、災害時逃げるための知言歳を学ぶ訓練なのに、間違えた知言歳を覚えさせてしまっていたので、我々ではそんなことがないといいなと思った。また、南海トラフ地震などが起きても、釜石の小中学生のように冷静に判断してひなんしたいとも思った。

ほくは、釜石遠征で土砂災害のことや、ラブビーのことなどを学びました。

災害のことは、東日本大震災のつなみや土砂災害のことを学びました。東日本大震災では、死者約1300人・行方不明者が4,282人あった。

土砂災害が来たあとに防災センターにひな人した192名の内、つなみで防災センターにいた162名が命を落した。

その192名がひな人した防災センターは「命を守るために一時的に逃げる」場所だった。

東日本大震災は、最初は小さな土砂災害が始まり、またつなみのしんはいていかなった、土人土人土砂災害の強さが6弱になってや、と津波

の心配をし始めた。この時の土砂災害の長さは2分〜3分だった。

土砂災害の時に釜石中学校は、土砂災害のえいきょうで、停電したため、放送

が出来なくなった。先生もパニックになって、こまかな指示が出来なかった。しかし生徒が外に出ているのを確認したので先生達はあな

しんした。そのため釜石市の子供3000人の内99.8%の子供が助かった。

釜石遠征では、釜石の奇蹟などの色々な知識が分かった。

僕は今回釜石遠征に行き、震災に関する事、ラグビーに関する事などをたくさん学ぶことができました。

まず1日目は、釜石に到着した後、トップチームの試合を観戦しました。その試合のハーフタイムには、「ありがとうの手紙」という歌を歌いました。試合観戦が終わった後は、いのちをつなぐ未来館と、宝来館のサポーターのお話を聞きました。いのちをつなぐ未来館では、東日本大震災による被害を良く知ることができました。

牛舎に印象に残ったのは、リアス海岸の話を、釜石の小中学生の選手、監督の行動の早さです。

僕は今までリアス海岸という地形を知りませんでした。

選手、監督の話も今の僕達では、こんなに冷静で、すばやい行動をすることができないと思います。

そういったすばやい行動ができたから釜石の小中学生は命を守る事ができたのだと思います。

僕たちが住んでいる場所も、大きな地震が必ずくると言われている地域です。東日本大震災のことを教訓として、僕たちの命を守る事ができた方がいいなと思います。

2日目の試合、アフターマッチファンクションでは、とても楽しい時間を過ごすことができました。

またいつか、釜石に行けたらいいなと思います。

僕は釜石遠征に行つて震災学習をしました。震災学習で「みらい館」に行きました。みらい館では、当時中学生だった人に話を聞きました。東日本震災で津波が来て11mの高さの津波がきました。津波で引き波があって、津波は引いて引いて、2かい目の津波は最初の津波とはちがって黒い津波がきました。

つぎは地震で、当時中学生だった人は、音階をやる前の時におきました。体育館の中にいて、体育館は古かったので少しのゆれでもライトが落ちてくるくらい古かったそう。当時中学生だった人は、すぐに体育館から出て、ほかの人とも出てそうです。ゆれがおさまったのは、2分〜3分くらいだったそうです。その時のゆれが、立っていられないほどだったそうです。校庭ににげて、点呼をしました。先生が「点呼はいいから、早くにげろ」と言いました。中学生は、にげると中に、小学生と合流して高台にひなんしました。1つ目の高台についた時に、「ここはあつた」と言うおばあさんがいて先生は、小中の生徒といっしょに高台へ行つたそうです。2つ目の高台についたがそばに津波が来たため、3つ目の高台に行きました。3つ目までの高台まで津波がきませんでした。小中の生徒の点呼をやって全員助かったそうです。

釜石の家は60%なくなつたそうです。釜石は震災の後、小中がなかったところにスタジアムを建設して、そこで「ワールドカップ」をひらきました。

ぼくは、この釜石遠征に行き、ぼくたちが
うまれていなかったころにおこっていた東日本大
震災の時の様子をいのちをつなぐ未来館の
方にくわしく教えていただいたことができました。

ぼくはそのときに見た震災がおこるすぐの
ときの映像が1番印象に残っています。
ぼくは震災がおこった翌年にうまれていてす
ぐ大きな被害がおこっていたということを学校
でしか聞いたことがありませんでした。

けれど今回くわしく教えてもらい釜石がどれ
だけ大きな被害を受けていたかを映像で
見てよくわかりました。そのなかでも津波が
1番大きな被害を受けていたということを教え
てもらいました。

その翌日に作った糸半マッチでは他のチーム
の子との仲を深めることができたのでよかったです。
試合の後は行ったアフターマッチフ
ォーメーションでは、相手の合同チームの子との仲を
深めることができ、スクラムユニゾンの方々
が歌っていただいていたときにしっかりと盛上
ることができたのでぼくはうれしかったです。
今回の遠征で学んだことは、これからの生活
で生かせるようになっていきたいです。

今回の釜石遠征で、ほくは色々な事を学んだし、

色々な事を、今後生かして行きたいと思いました。

まず1日は、新幹線で東京に、乗り換えて東北の
岩手県に行きました。まずは、釜石競住居復興スタジアム
で、静岡ブルーレヴズのトップチームの試合を観ました。

その後、ハーブタイムにみんなで練習した「ありがとうのチキチキ」を歌いました。

それから、「いのちをつなぐ宝楽館/釜石新居のバグ」に行きました。

そこで、実際に震災を経験した方が案内してくれました。

まず津波の高さや当時の町の状況を聞きました。

実際の津波の高さは、約11mだったそうです。僕は想像もつかない

くらい、びっくりしました。僕はホテルに帰ってから考えてみました。

確か電柱が10mだったのでは、それを越えていくというのは、

本当に、びっくりしました。その後も当時の映像を観てとても、悲しい

気持ちになったりしました。その後に、宝楽館の女将さんの話を聞いて

宝楽館の復興はとても苦戦されたんだろうなと思いました。

2日目は、試合を行いました。チームは、釜石と青森としがらのチーム、合同

でした。みんな知らない人がいて、慣れない中、みんなで、

話して、仲良くなって、試合に、参加することができました。

試合は、見事勝って、僕は、トイも取ることもできました

チームの中で一番声が出たと思います。

今日の釜石遠征では、10のチームの子と仲良くなれたし、

特別な震災学習もできたので、最高の思い出になりました！！！！

釜石に来る前は地震のことや津波のことをあまりよく知らなかったけれど、実際に被害を受けた場所に行くと、地震と津波のことを学びました。地震の揺れが2〜3分も続いたり、20分で津波が発生し、防波堤を超えたりして、とても大きな被害を受け、心が苦しくなりました。このようなことを二度と起こさないため、防災への意識を高めることが必要だと思いました。試合では、普段文才戦する機会のない、遠くから来た人たちと混ぜてチームを組み、めったにない事を体験させてうれしかったです。しかし、コミュニケーションをとらないで試合では上手にプレーできないで思ったので、試合前に話し合えるようにしました。試合ではチーム全員でコミュニケーションをとって、パスがほしいところまで回すことができ、トライまでもっていくことができ、全員でよろこびました。他のチームの人とも仲良くすることができ、非常に内容の濃い2日間になりました。

(ぼくが生まれる前に、釜石で人が建物がむじみに潰されていたから)
 (ぼくは、地しんをなめていました。しかし、未来館で聞いたことなどい
 は、ぼくの想像していた地しんとは、まったく違いました。ぼくは、地しんで、
 建物がぐずれ、つなぎで、がれきがながされていくのかなと思っていました。
 しかし、この地しんでは、つなぎが、主に、悲しみを運んできました。ハザードマップ
 には、のっていないくらいまで。ハザードマップでは、ここには、ツナガがはい、だから安心と思っ
 た人がいて、つなぎにながされた人 もいる と思います。もし食べれば、つなぎが近
 くに来たのなら、もう逃げられます。つなぎは、陸でも、時速80km/h以上です。人間が
 つなぎから逃げられる制がありません。このことにより、つなぎのまれてしま
 った人がいます。数千人も。(しかし近くの小中学校や、幼児園の子達は、ほぼ全
 員無事でした。)中学生は、小学生の手にもどり、幼児園の子達をお
 んぶ(たり)しました。なんと、みんなて開始したのは、5分未満です。先生達の判
 断のおかげで。そして、みんな所に着きましたが、山がぐずれており、近くのおばさんに、
 「山がおかしくなったのは、アタタとかい」と言われたことをしました。すると、そのみんなは、つな
 ぎのりまわってました。次のみんなには、糸を繋ぐつなぎはこたえだ
 が、すぐそこまで、やつなぎがせまっており、みんながパニックになっ
 てしまい、みんな、じんじんに、にげました。しかし中には、シニアや、ようじも一緒
 に、みんなしている人達もありました。もしほくらう、そんなゆう気はなく、
 せめて、ようじ1人も、おんぶしてにげるとおもいます。シニアを助けた人たちは
 すごくいいと思います。ぼくは、地しんがきて、生きるか、死ぬかは、糸一
 重だと思いました。先生や、おばあちゃんのおかげで、釜石の小中学生
 は、無事だったのだから。

ぼくは、未来食官で震災時に何かあったのか
どのようにひなんをして助かったのかを失いました。
女将さんの話では、震災後女将さんが悲しんで
いたときにラグビーワールドカップがあると聞いてそれを
釜石でやりたい!!という思い、希望がでるラグビー
で明るい気持ちになれるということをまなべまし
た。

ぼくは、釜石へ行く前はひなん訓練
なんかめんどうくさい、やりたくないと思っていたけど

未来食官での話や女将さんの話を聞いてひなん
場所やひなんけいろの確認などひなん訓練で意識
すべきこと訓練の大切さを失いました。なので
いつか来る南海トラフにそなえてもっとまじめにやろう
と思いました。さらに試合では苦手だったタックルもたくさん
できてタックルへの苦手意識をへらすことができました。
ぼくは、釜石遠征を通して防災意識を強めマナー
をしっかりと守れるように成長することができた。

この釜石の合宿でいろいろな事をしました。

いのちをうなく未来食官で自分が思っている以上に苦い事が
起きていました。

東日本大震災の時に釜石にも被害が出ていました。

その震災で大地震や津波で家が簡単に崩れました。

でも避難訓練を何度もして助かる人はいっぱいます。

小中学生も避難訓練で99%助かるそうです。

なので避難訓練をやる時は災害が来ると想定をやっていない。

女将さんの話ではカムチャッカの大地震のことを話してくれました。

カムチャッカの大地震の震度はM 8.8です。

カムチャッカの大地震が釜石に影響して津波がきました。

あんなに怖れているのに津波が来てびっくりしました。

静岡もいつ大地震が来かわからないので、

自分の家でも避難場所をかくとしたり

防災グッズをかくとしたり1週間分の食料をそなえたりして

家族と暮らしたいです。

【大漁旗】

静岡と釜石の絆を繋げていく象徴として2022年に作成。
この大漁旗には、静岡の象徴の「富士山」と釜石の象徴の「はまゆり」を織り込んでいます。

また静岡ブルーレヴズと釜石シーウェイブス両エンブレムの間には、ラグビーボールを描き、ラグビーを通じて育んできた友情、絆を表現。

この先も静岡と釜石の絆を紡いでいくことができるようにと願いが込められています。



